

音楽科学習指導案

学 級 2 年 1 組 (男子 21 名 女子 20 名 計 41 名)
場 所 第 1 音 楽 室 (本 校 舎 4 F)
授業者 教 諭 本 田 章 子

1 題材 構成を工夫してイメージに合ったリズム曲をつくろう [共通事項] リズム, 構成

2 題材について

本題材は、学習指導要領「第 2 学年及び第 3 学年 A 表現(3)ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。イ(イ)音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。」に関する内容である。

音楽科における創作活動では、生徒自身が知覚・感受する場面や思考・判断・表現していく過程を明確にし、[共通事項]との関わりの中で、学習内容を精選し指導と評価の一体化を図ることが重要である。

本題材「構成を工夫してイメージに合ったリズム曲をつくろう」は、リズム, 構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音素材の特徴や反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫し、表したいイメージにあったリズム曲をつくることをねらいとしている。また、主体的に練習したり、仲間と協力したりしながら試行錯誤を重ねる活動を通して、思考・判断する学習の充実を図っていくことができる題材である。

これまで生徒は、歌唱や器楽の活動は意欲的に取り組んでいる。しかし、創作活動においては苦手意識をもっている生徒も少なくない。音符や休符の知識・理解、音や音楽で表現する演奏技能においては個人差があり、習得させるための時間を要すると思われる。そのため、本題材は入力した音を確認しながらリズム曲づくりができるプログラミングソフトを取り入れることとする。個人の演奏技能や読譜力に左右されずに活動ができる利点があるため、生徒は無理なく音楽づくりを学習することができる。本題材で扱うプログラミング教材のスクラッチは、音符や休符をブロック単位で入力し、音楽の構造を視覚的に捉えることができるビジュアルプログラミングソフトである。入力した音符や休符が音で再生されるため、音を聴きながら試行錯誤することで、表したいイメージと関わらせながら音楽をつくることができると期待できる。また、入力したブロックを並び替えることで、音楽は様々に変化していくため、生徒は表したいイメージにより近づけることができると思われる。プログラミングソフトの特性である何度でも修正し、試行錯誤を重ねることができることから、生徒は粘り強く意欲的に創作活動に取り組み、表したいイメージと関わらせながら音楽を表現する喜びや楽しさ、音楽のよさに気付くことができる。

自分のイメージを音や音楽で表現する学習を進めるにあたっては、音や音楽を媒体とした生徒同士の関わりが重要であると考え。学校教育における音楽の学習活動では、音や音楽に対する思いや意図、自分にとっての音楽的価値を、言葉や音によるコミュニケーションを通して他者に伝えたり、共有したりすることが重要である。音によるコミュニケーションとは、自分の思いや意図を音で他者に伝えること、他者の思いや意図を、音を通して感じ取ることである。それらを支えるものとして言語活動が必要であると考えている。音によるコミュニケーションの視点からも、言語活動を支えとしながら思いや意図を音楽活動を通して相互に伝え合えるよう、生徒が思考・判断・表現する場面を積極的に設定していきたい。

3 題材の目標

(1) リズムの反復，変化，対照などの構成上の特徴について理解するとともに，創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な，課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。

【知識及び技能】

(2) リズムや構成の特徴を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，まとまりのある創作表現を創意工夫する。

【思考力，判断力，表現力等】

(3) リズムの反復，変化，対照などの構成上の特徴や全体のまとまりに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むことができる。

【学びに向かう力，人間性等】

4 題材における評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力，判断力，表現力等	ウ 学びに向かう力，人間性等
○ リズムの反復，変化，対照などの構成上の特徴について理解している。 ○ 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な，課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。	○ リズムや構成の特徴を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，まとまりのある創作表現をするにはどのように表現を工夫したらよいか思いや意図をもっている。	○ リズムの反復，変化，対照などの構成上の特徴や全体のまとまりに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画（全3時間）【単位時間における評価規準】

時	主な学習活動	単位時間における評価規準		
		ア 知識及び技能	イ 思考力，判断力，表現力等	ウ 学びに向かう力，人間性等
1	1 リズムの例を全員で演奏し，反復，変化のつくり方を理解する。 2 ワークシートを用いてペアでリズム曲のイメージを共有する。 3 8小節のリズム曲をつくる。	○ リズムの反復，変化，対照などの構成上の特徴について理解している。 ○ 音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。		
2 (本時)	1 模範例を見て，イメージに合ったリズム曲のつくり方について理解する。 2 イメージに合ったリズム曲にするにはどのようにしたらよいかを話し合い，中間発表の練習をする。 3 中間発表をする。	○ 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な，課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。	○ リズムや構成の特徴を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，まとまりのある創作表現をするにはどのように表現を工夫したらよいか思いや意図をもっている。	○ リズムの反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

3	1 他のグループのよ さや改善点を共有し、 リズム曲を仕上げる。		○ 反復，変化，対照 などの構成上の特徴 や全体のまとまりに 関心をもち、音楽活 動を楽しみながら主 体的・協働的に創作 の学習活動に取り組 もうとしている。
	2 作品を発表し合い、 各グループの工夫した 点に気をつけて発表を 聴く。		

6 本時の実際（2時間／全3時間）

- (1) 題材 構成を工夫してイメージに合ったリズム曲をつくろう
- (2) 目標 音楽で表したいイメージをもち、構成や全体のまとまりを工夫してリズム曲をつくることができる。
- (3) 授業設計の工夫

本題材の1時間目に、「リズムの反復，変化，対照などの構成上の特徴やリズムを知覚・感受し，その特徴を理解しながら，反復，変化などの構成を生かした8小節のリズムをつくる」ことを目標に授業を行った。創作の際に，「手引き」や音符を図式化したカードを用い，リズムの組合せや，反復，変化などの構成に関する既習事項を活用しながら，自分たちの音や音楽で表したいイメージをもとにリズム曲をつくるよう促した。

その授業の生徒の様子を観察したチェックリストと，生徒が8小節のリズムを書いたワークシートで，下記の基準のもと評価を行った。

A	リズムの反復，変化，対照などの構成上の特徴を理解しながら，課題に沿った音を組み合わせ てリズムをつくり，思いや意図をもって創作表現を創意工夫している。
B	リズムの反復，変化，対照などの構成上の特徴を理解しながら，課題に沿った音を組み合わせ てリズムをつくり，思いや意図をもって創作表現を考えている。
C	B未満

その結果，「A」の生徒が〇〇％，「B」の生徒が〇〇％，「C」の生徒が〇〇％であった。これを基準
に照らすと，「ケース1」となる。

ケース 1	多くの生徒がB基準 以上であり，かつB よりAが多い。	授業のねらいを多くの生徒が十分達成している状態と判断する。こ の時間で行われた手立てが有効に働いていると判断し，次時以降の 授業も同様の手立てを活用する方向で授業改善を行う。
----------	-----------------------------------	---

(4) 展開

過程	時間 経過	主な学習活動（・予想される生徒の姿）	○指導上の留意点 ◎評価
導 入	5分 一斉	1 リズムカードのリズムを全員で演奏す る。	○ 前時の学習を振り返りながら演奏させ，本 時の学習への意欲を高めさせる。
	3分 一斉	2 本時の学習課題を確認する。 音楽で表したいイメージを生かし て，まとまりのあるリズム曲をつく るには，どのような工夫をすればよ いだろうか。	○ 本時の課題と学習の流れについて提示し， 見通しをもたせる。 ○ 前時でつくった8小節のリズム曲を，本時 ではイメージを生かしてまとまりのあるリズ ム曲にすることを全員で確認させる。

展 開	10分 一斉	3 ペアで音や音楽で表したい曲のイメージを共有し、イメージに合ったリズム曲のつくり方を確認する。 ・ 落ち着く感じにするには音の長さを長くすると良さそうだ。 ・ 曲の山場は、音の長さが短い音符を多く組み合わせると盛り上がりそうだ。	○ 曲の感じや雰囲気の違いを感じ取らせ易くするために、生徒のワークシートを参考に见せたり、模範演奏を聴かせたりして、曲の感じが変化することを視覚的・聴覚的に捉えさせる。 ○ リズムのいろいろな組合せ方の工夫を図で示し、音で違いを聴き取らせることで音楽の構造を捉えやすくする。
	5分 一斉	4 タブレットの音や声で音を試しながら、音を選んだり、組み合わせたりしてリズム曲をつくる。	○ プログラミング教材スクラッチで創作活動をする際の一定の条件 ① 4分の4拍子 ② 8小節 ③ 速度 J = 100
	15分 グループ	5 イメージに合ったリズム曲になっているか音符のつながりを確かめながら、発表の練習をする。	○ 発表の練習を行う。 ◎ リズムや構成の特徴を知覚し、その働きの生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化などの構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。
	5分 一斉	6 中間発表をする。 ・ 曲の感じを変えるために音の長さを変えると聴いた感じが変わる。 ・ リズムの組合せを変えると違った音楽に聴こえる。	○ 1～2グループに発表させ、課題の発見や改善の見通しをもたせる。
	5分 グループ	7 自分たちの作品について振り返る。	○ 他のグループの工夫に気付かせ、次時の課題を発見させる。
終 末	2分 一斉	8 本時の振り返りをする。 音楽で表したいイメージを生かして、まとまりのあるリズム曲をつくるには、音の長さや組合せ、構成を工夫してつくとよい。	○ 学習評価表で、授業を振り返らせる。 学んだことの意味を自覚させることで、次の学習へのつながりを意識させることができる。
	1分 一斉	9 次時の予告を聞く。	○ 生徒の活動や変容を認め、次時の学習への意欲につなげる。

(5) 本時の評価の基準

A	音や音楽で表現したいイメージをもち、課題に沿った音を組み合わせ、反復、変化などの構成上の特徴や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって創作表現を創意工夫している。
B	音や音楽で表現したいイメージをもち、課題に沿った音を組み合わせ、反復、変化などの構成上の特徴や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって創作表現を創意工夫している。
C	B未満

